

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500521		
法人名	有限会社 暮らしの里		
事業所名	グループホーム暮らしの里		
所在地	千葉県千葉市緑区大膳野町4-141		
自己評価作成日	平成26年1月22日	評価結果市町村受理日	平成26年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的で穏やかな日々を送る事ができる環境づくりに努めています。 一人ひとりを良く見極めて、その方が活躍できる場を提供して現状維持が出来る様に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の「もう一つの我が家」という表現がふさわしいホームである。朝起きて食事をし、ゆっくり自由に過ごし、お風呂に入ったりと、できる限りその人らしく生活できるように取り組んでいる。利用者や家族は、管理者を信頼と親しみを込めて「おかあさん」と呼んでいる。連携病院の医師の定期的訪問や管理者が医療従事経験者のため、健康面における安心感がある事業所である。食を大切にしており、温かいものは温かく、季節にあった食材や昔ながらの田舎料理など健康的な食事で利用者の嗜好にあった献立を提供している。外部評価で得た気づきや改善事項は直ぐに改善に着手し、積極的に行動する姿勢は優れている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は全職員が理解し勤務に就いている。	ホームをもう一つの我が家として管理者を中心に家庭的な支援と生活の実現に向けて、利用者一人ひとりにとって大切なことを職員が理解し、取り組んでいる。それが利用者及び家族に伝わっていることがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時近隣の方との声掛けやゴミ出し、回覧板等の用事はなるべく入居者を交えて交流を図っている。近隣の理髪店とも長い付き合いである。	近隣との良好な関係を構築し、日常生活の中で挨拶や会話を交わしている。事業所で行われるイベントへの参加呼びかけや防災訓練などを通して、地域との関係性を深めていっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人を雇用して認知症の人の理解と支援の方法を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センターの方の意見を良く聞いてサービスに取り入れている。	運営推進会議は計画的に年3回実施し、民生員や地域包括支援センター、地域代表等が参加している。利用者及び家族からの意見や要望を把握し、多角的に多様な意見が聞ける会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な事等は行政に相談、確認してサービスに取り組んでいる	法人が同市に3つの事業所を運営し、それぞれの事業所が市町村と連絡を密にするとともに、法人の代表が積極的に関係性の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠においては完全に確立されていないが、希望時やその方の状況を見ながら外出への機会を設けている。不穏になる前のケアに努めている。	身体拘束をしないケアについては法人3事業所で行われる会議で徹底し、同一内容の研修等を各事業所で実施している。玄関施錠においても、利用者の特性やモニタリングによって適宜対応できるようにしたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待研修を行っている。毎朝ミーティング時ホーム長より、言葉使いやゆとりを持ったサービスに努める様に話がある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の有する能力に応じた支援の内容と後見人制度についてミーティングの時に伝えられている。後見人が付いている人の連絡補法も熟知してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に家族、本人に見学と体験入所等してもらった後両者が納得した所で契約を結んでいる。解約、改定等の時は理解が出来る様に話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱の設置を行っている。面会時に些細な事でも拾い上げて対応している。	開設当初から、利用者及び家族からの意見を反映した事業所運営を実施し、家族の信頼も厚い。重要事項説明書等に複数の苦情受付窓口を記載し、契約時に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの時職員から意見を聞く場を設けている。その他、いつでも相談や思いが聞けるような雰囲気を作っている。	朝礼や会議において職員の意見を汲み取り、事業運営に反映するようにしている。また法人3事業所で会議を開催したことで、多角的な視点で事業所運営をできるようになり、職員の意見の反映が更にできるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が気持ちよく勤務出来る様に、各個人が持ち味を生かした職場作りをしている。管理者は職員の能力や勤務状況は把握できており、やりがいをもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じた研修に出てもらい、内部研修へとつないでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修参加、定期的に3施設の合同会議を行い意見交換をし、情報収集にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームを良く見て頂き、お試し入所で実感していただくと共に入居者、家族の方とも良く話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には不安や要望を十分に傾聴し懇切丁寧に説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの支援が適切か否かを良く見極めて否の場合は他のサービスも含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩でもあり、尊重する気持ちを念頭において、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を必ず行っている。家族が行えない行えない買い物代行も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来たときゆっくりくつろげる場所を提供している。通信手段も途切れないように援助している。	馴染みの人や場所との関係性継続については積極的に進めたいと考えており、食事や会話による回想法によって昔の記憶や感覚に触れることができるような支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わり合いが増すように仲介し支え合って過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の家族や本人からの相談には、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーションを深め、望みを引出している。困難な時、カンファレンスを開き、本位に近づけたケアに取り組んでいる。	職員は、食事中や食後のゆったりした時間に、表情を見ながら話を聞き、意向を汲み取るようにしている。把握した内容はミーティングで共有することになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一度では把握できない部分もあり、後で家族や本人の話の中で付け足す事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のペースを大切にしながら、その人に合った生活が営めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前に本人、家族の意見を取り入れミーティングで話し合った後作成している。モニタリングは全員で取り組んでいる。	本人や家族の意向、ミーティングでの職員の意見を入れて介護計画を作成している。全職員が計画の内容に沿った支援ができるように、計画に対して職員がどう対応できたか一覧表にして確認できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化、気づきを記録に残し職員間で共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況に応じて、本人や家族と話し合い 他のサービスへの移行も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が訪問している。散歩時に会った地域住民との交流も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他科に受診される方は、症状発生時からの内容を記録して、付添いの家族に渡している。	専門医などのかかりつけ医への受診は家族の協力を得ているが、受診内容などの情報はホームとしても把握するようにしている。この他、協力医療機関での健康診断、歯科医の訪問などにより健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には2名の看護師がおり、常時入居者の健康面について相談出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も病院との情報交換に努めて、退院後の生活の在り方についても話し、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より重度化した場合と終末期のあり方について管理者が家族に話しを行い、家族の不安が和らぐようにしている。	段階ごとに家族などの意向を確認するようにしている。主治医の協力を得て、できる限りのことはしたいと考えており、看取りまで視野に入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に事故発生時の対応についての勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報装置の使用法や消火器、スプリンクラー等設備の確認を定期的に行っている。消防署立会で訓練も入居者と一緒にしている。	当ホームは千葉市消防局から防災に取り組む姿勢を評価され、表彰された。防災訓練はホーム、利用者、地域が一丸となって行っている。昼間、夜間想定など年3回の訓練を実施しており、ほぼ全職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を いつも念頭に置いて人として接している。	トイレを使う時もバスタオルを使用して、肌が見えないようにする、入浴の時は脱衣所を一人で使用するようにするなど、羞恥心への配慮をしている。また、個人情報保護については契約書に明記しており、個人に関わる書類は事務所で管理している。	個人のプライバシーに関わる事を、職員同士が共用空間で話している場面も見受けられた。さらなる配慮が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わっている中で、その方の希望や困っている事を聞いて対応している。自己決定が出来ない人は、選択肢を与えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事においても入居者優先にする事を念頭に置いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時 身だしなみを自分で整えられるように、鏡に向かってもらったり、衣類の選択を一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出し、献立書き、下準備、盛り付け、味見の役割を担って頂き楽しみになっている。	管理者は食を何より大切なことと考えており、「絶対に美味しいものを食べてもらう」という気持ちを強く持っている。職員が作る料理も、管理者が必ず味見をしている。訪問当日もホームの畑で採れた野菜を多く取り入れたメニューで、たまたま訪問していた利用者家族も一緒に食事をしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表で摂取量の確認を行っている。食事形態も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施、磨き残しの介助、訪問歯科医との連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便意、尿意を訴えられない人も表情や動きを見極めて誘導。失敗の多い人も定期的にトイレへ誘導した支援を行っている。	排泄チェック表を付けており、時間を見て誘導するようにしている。立位が難しくなった人にも、二人介助でトイレで排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回の体操、散歩、家事手伝いへの参加で体を動かすような配慮を行っている。繊維質の多い食材の提供とバランスの取れた食事を摂ってもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースに合わせながら無理なくゆっくり入浴できるように、入浴時間は十分に確保している。	入浴が楽しい時間になるように、職員と話しながらゆっくりと入ってもらっている。場合によっては入浴剤を使用したり、季節感を味わってもらえるようゆず湯をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間は見守っている。冷暖房の調節と静かな環境の提供と、夜になって不安が増す人の心のケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者は服薬介助を行う際、手に取った時と本人の前に行った時の2回名前の確認を行っている。飲んでいる薬の作用確認も行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を生活の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の方に協力、理解を得ながら外食に連れて行っている。	散歩には車いすの利用者も他の利用者と一緒に出かけている。また、買い物や家族と一緒に出かける外食、墓参りなど、できるだけ希望に沿った外出を支援できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人においては本人に預け、買い物も職員同伴で行う。金銭管理が出来ない人は、ホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を自由に掛けてもらっている。手紙も望みがあれば代筆し、通信は遮断しない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活け、裏の畑で野菜などを育てて見てもらっている。共有の空間は清潔である様に努めている。	1階と2階にユニットが分かれているが、どちらも明るく、職員が一目で全体を見渡せる造りになっている。テレビが置かれているコーナーは畳敷きにこたつが置かれており、季節柄、ひな人形が飾られていた。全体にゆったりとしており、寛げる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアスペースにはソファを置き、畳の上にコタツも配置され、自宅に居るような空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染の物を持ってきて頂いて、安全に過ごせるように配慮している。	人によっては仏壇やテレビを持ってきている。家族にも協力してもらい、我が家のように安心して過ごせるようしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで自由に動け居室やトイレ等は分かりやすくなっており安全に過ごせる。		